

令和3年度 学校評価総括表			奈良県立大淀養護学校			No.1		
教育目標		児童生徒一人一人の人格と人権を尊重し、障害の状態や発達段階、生活実態を的確に捉え、「自分の意見や思いを伝え行動し、主体的に生きることができる児童生徒」を育てる。					総合評価	
運営方針		創意工夫を凝らした教育活動を展開する中で、一人一人の特性や能力に応じて社会参加と自立に必要な力を養い、健康で心豊かな児童生徒を育成する。						
本年度学校スローガン		「元気なあいさつ、笑顔いっぱい、一人一人が輝く学校」						
令和3年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標			
<p>今年度についても、引き続き県教委及び本校のコロナ感染症対策ガイドラインをもとに、各学部主事や分掌部長が重点目標に沿った具体的内容に基づいて、各学部や分掌部内で取り組むべき内容の検討を行い、全体での協議を重ねながら学校運営に取り組んだ。</p> <p>学校生活や学校行事については、できないことを基本に考えるのではなく、どうすればできるかを念頭に置きながら取り組みを進めるように考えた。本校版コロナ対策ガイドラインについても、感染拡大状況等に応じて見直しを図りながら、児童生徒が健康かつ安全・安心に学習活動に取り組めるよう環境改善や学習配慮・工夫を行った授業や行事等を計画し実施した。</p> <p>また、小低学年、小高学年、中学部、高等部の4つの単位で教育課程を編成し、それぞれが果たす役割とつながりを大切にしながら、各教育課程の特色化を図った。次年度より高等部についても全面実施となる新学習指導要領に則り、3観点での評価が行えるよう目標設定や評価についても研修を行うとともに、学習指導案へも反映できるようにした。</p> <p>教員の専門性向上では、学校統一テーマに基づいた学部研究、公開授業研究、校内研修会、災害時の初動対応シミュレーション研修などを行い資質向上に努めた。とりわけ、防災研修では、メールチャットを使い具体的に場面を想定して研修訓練を行うことができた。</p> <p>令和4年度コロナ対策を継続しながら学校運営の重点目標を踏まえ、「自分の意見や思いを伝え行動し、主体的に生きることができる児童生徒」の育成並びに「地域に開かれた学校づくり」に計画的に進めていきたい。</p>		1	個々のニーズに応じた効果的な指導を行うため、多角的な実態把握（発達検査等）を行い、指導内容・指導方法の工夫と改善を進める。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の障害の状態や特性に応じた「自立活動」に取り組むため、27項目から必要な項目を選択し、具体的な目標や指導内容、指導場面を設定し、「時間の指導」を行う。 教科指導では、発達の視点ももち、知的的各教科の段階を踏まえた目標と内容を設定し、集団での学びを推進するとともに、カリキュラムマネジメントを進める。 			B	
		2	小、中、高のつながりを大切にするとともに、小低、小高、中学部、高等部の4つの教育課程の特色化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 高等部は産業科であることを踏まえながら、「職業科」を取り入れ、実態に応じた具体的な改善を進める。また各学部の目標を達成するため、基礎集団や授業の集団編成の在り方、行事の改善や工夫を進める。 				
		3	キャリア教育や進路指導の充実を図り、コミュニケーション力（挨拶など）や、望ましい職業観を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人に応じた、適切で円滑なコミュニケーション力を育てる。 各学部でのキャリア教育や進路指導を通して、自己理解を促す。また各ライフステージに応じた機関連携を大切に、組織力（担任・進路専任・主事・学年主任・学年進路）を活かした進路指導を進める。 				
		4	児童生徒が安心して学校生活がおくれるよう、安全の確保に努め、安全教育和防災教育の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 防災安全部、生指部、保体部等が密に連携を図る。防災研修等で教職員の危機管理意識を高めたり、地震避難学習等を通して安全学習や安全指導の充実を図る。 地域（大淀町）との連携の在り方について、ともに考える。 				
		5	校内研修の活性化を図り、教職員の指導力と授業力の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが自分で考えたり活動したりなど、体験型の授業を目指すとともに、指導と評価の一体化（3観点）の視点を大切に、授業改善を行う。 学び続ける教員を目指し、校内研修の機会を計画的に実施する。（ハートOJT④、フレッシュ研修、承認研修、ICT活用研修（Meet、オンライン授業）） 				
		6	南部地域の特別支援教育のセンター的機能を果たすため、訪問相談「つむぎ」を中心に、地域への効果的で適切な支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> 相談内容やニーズをチームで的確に把握し、win-winの関係性を大切にした訪問相談、オンライン相談等を行う。「小・中のためのオープンスクール」を企画する。 校区内の教育委員会、教育支援委員会、幼・小・中学校等と情報を共有し、就学・転入学等の相談を、計画的・組織的に実施する。 				
		7	一人一人がお互いを大切な存在として捉えることができるような「つながり」を築きまた深められるよう、豊かな社会性や人間性を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> 社会体験学習や交流及び共同学習、また事業所等との連携（トライアングルプロジェクト）等に取り組む、地域に開かれた教育活動の充実を図る。 子どもたちの可能性を最大限発揮できるよう、児童生徒・ご家族の思いをしっかり受けとめ、組織として人権意識を高め、人権教育を推進する。 				
		8	教育の質の向上を図るためにこそ、超過勤務を削減する。	<ul style="list-style-type: none"> 学部主事等と連携し、月1～2回の学級担任者会を、年間通して計画的に開催する。主担任は、設定時間内に必要な協議が活発に進められるよう、案件作成と資料の事前配布、「Grade」の効果的運用を行う。 各授業ごとに「年間計画表」を作成する。（5月中に年間の主な学習内容を立案する。2学期以降の分については、夏休みに見直しを行う）*学習内容配列表の活用→シラバス→「年間計画表」 セット時間を厳守できるよう、会議時間の設定を行い、計画的な学校運営を進める。（金曜日は大きな会議を入れない、定時退庁日は17:20、その他の日は19:00）*留守番電話と学校携帯電話の運用 				
評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価及び改善方策		
教育課程 (教務部)	小低・小高・中・高それぞれが果たす役割とつながりを大切にしながら、各教育課程の特色化を図る。	各教科の目標や内容を見直し、新学習指導要領の理念を踏まえた教育課程を目指す。高等部は改訂した教育課程に着手する。	B	B	小学部…自立活動の時間、中学部…総合的な学習の時間、特別活動、社会・理科について見直しを行い、教育課程の変更を行った。高等部では改訂した新教育課程をスタートさせた。授業名と教科名を一致させたことにより、教科の位置づけが明確化し、新学習指導要領の内容をより意識した学習活動に取り組めるようになった。新学習指導要領に則り三観点での評価が行えるよう目標設定や評価について夏期研	見直した内容について実践を進めながら学校全体で共有し、カリキュラム・マネジメントを積極的に推進する。目標設定や評価について、引き続き検討を進めていく。	〈学習内容〉 ・各学部で子どもの生活年齢や発達段階を考えた課題や内容を検討し、取り組んでいた。い。	
		高等部は、発達と各段階を踏まえた教科指導を行うため、シラバスをもとに実態に合わせた年間計画作成につなげる。小中学部は、授業改善に向けた課題を見極めシラバスの必要性を考える。	B		高等部では研究の日を通して国語科のシラバス完成を目指して研究に取り組んだ。小学部、中学部についてはシラバスについて検討を進め、必要性を感じるところまでは話し合いを進めることができたが、実際どのような形式がよいかまでは結論を出せなかった。	来年度本格的な運用を進め、使用しながら改善を続け、他教科についても作成を進める。高等部のシラバスを参考にしつつ小学部・中学部にとってどのような形式がよいか試行し検討を進めていく。他県で実践されている「学びの履歴」の大淀版の検討も同時に進める。		
		一年間を通して各教科の目標や内容を計画的に指導できるよう全校で「年間計画A表・振り返り表B表」を作成し活用を目指す。その際、シラバス作成時に活用した「学習内容配列表」を参考にする。	B		振り返り表B表については全学部ともチームで作成することが定着した。小・中学部では教科会での活用も定着しつつあるが、年間計画A表については作成したものを活用しきれない側面がある。学習内容配列表については年度初めに各授業チームに配布するも、積極的な活用は見られなかった。	A表の積極的な活用方法について検討する。（ねらいを重点的に立てる、教科会レジュメとの一体化等）学習内容配列表、シラバス、学びの履歴の内容を整理し、活用方法を検討する。		
教育活動 (各学部)	一人一人の実態に応じて、指導目標を設定し、指導内容の工夫と改善を行う。	【小】自立活動の目標の立て方や指導の在り方を、事例研究を通して考察する。自立活動の「指導の時間」について検討する。	B	B	【小】事例見をあげ、流れ図を参考に指導についての検討を行った。おはようひろばの時間に自立活動の指導を行うことは教員の中で意識できるようになってきた。	【小】個々の児童の目標や指導内容について、学部会を活用して小学部の教員間で共通理解し、さらに指導を深められるようにしていく。	〈コロナ対応〉 ・新型コロナウィルス感染症の影響から活動が制限される場合が多くあったと推測されますが、ICT機器を使った新しい指導方法等の工夫により子ども達の教育の機会が奪われないように指導にあたってください。	
		【中】具体的な目標や指導内容、指導場面を設定し、一人一人に適切な生徒の指導に繋げられるようする。	B		【中】事例生徒をあげ、成長が見られた評価基準を絞り、それに対する本時の評価基準や評価、改善のポイントをまとめた。	【中】教員は授業改善に、生徒は次の学習に生かすことができるよう、さらに指導を深められるようにしていく。		
		【高】実態に応じた自立活動の目標設定と指導場面を明確にする。また、生徒の実態に応じて生徒自身に自己理解を促す指導を進める。	B		【高】自立活動の指導場面の明確化について、学部内で確認し、意識付けを行った。自己理解における取組は、個々で行っており、学部内で推進するに至らなかった。	【高】学部内で行われている自立活動の実践内容を共有することで、学部内の自立活動に対する意識が高められるようにする。		
	教科等学習効果の最大化を図るため「カリキュラム・マネジメント」に努める。	【小】低学年と高学年の目標を、小学部目標を元に考える。小学部を低学年と高学年の2つの教育課程で編成していることを捉え、改めて考察する。	A	A	【小】教員が低学年・高学年それぞれの視点をもちつつ小学部全体として低学年から高学年の教育課程のつながりを意識して、目標を作成することができた。	【小】高学年の目標を達成するために、よりよい学級編制をつくる参考としてABのグループ分けについての検討を進める。	・コロナ禍でも子どもの発表の場を奪うことなく、学校行事が行えるよう取り組んでいた。い。	
		【中】学習指導要領全面実施を受け、各教科3つの柱で目標を立て、学部で研修を進めて確認し、実生活に生かせるように研修を進める。	A		【中】研究の日を活用し、グループごとに事例生徒をあげ、評価基準に対し評価をし生徒の変化をみながら、指導・支援の改善に努めた。	【中】個々に応じた指導や授業を充実させるために、指導案にどう生かしていくかの検討を進める。		
		【高】時間割Ⅱの目標を基に授業内容をさらに工夫する。各教科シラバス作成を進め、それを基に領域や内容に偏りがないように年間計画を立て、授業を行う。	B		【高】研究の日を通して国語科のシラバスを作成した。時間割Ⅱの金曜作業学習について時間割Ⅱ会議で検討した。	【高】授業チームで分担し、各教科のシラバス作成を目指す。時間割Ⅱについて引き続き授業内容の工夫改善に努める。		
地域に開かれた教育活動を推進し、豊かな社会性と人間性を育む。	【小】地域校や居住地校との「交流及び共同学習」において、相手校の課題やニーズを聞き取る。必要に応じて研修等を行いながら、「交流及び共同学習」を進める。	B	B	【小】児童同士が実際に触れ合っただけの交流を行うことはできなかった。Meetでの交流を計画するにあたり、本校や相手校の課題を検討しながら進めていくことができた。	【小】直接交流だけでなくMeetや作品・手紙交流などを交流の手段の一つとして今後も検討し、個々の児童にとって充実した交流及び共同学習を進めていくことができた。			
	【中】コロナ禍でも実施できる学習内容を検討し、その中で生徒の実態に即した社会体験学習ができるよう学部で共通確認し、各教科の授業を計画する。	B		【中】生徒同士の直接の交流を行うことはできなかった。手紙や作品の紹介等を介してお互いの活動を知ることができた。	【中】実態に応じてMeet等を取り入れ紹介などを進める。また、作品等を介しながら、互いを意識できるように、工夫や連携を進めていく。			
	【高】コロナ禍でも実施できる工夫を講じて、卒業後の社会生活につながる学習を計画する。また、卒業後の進路決定を見据えた情報共有のため家庭や事業所等と連携を密に図る。	B		【高】コロナ禍の中、計画的に学習を進めることは難しかったが、工夫をしながら行った。進路決定に向けて家庭や事業所と連携を図ることができた。	【高】計画的に学習を進めることができるように、シラバス作成とともに年間計画をたて、見直しをもって授業を行えるようにする。			
教育環境 (総務部)	PTA活動等を通して、教育及び教育環境の充実を図る。教材備品の管理、環境美化、駐車場の管理運営、式典の企画運営を行う。	PTA活動を補佐し、関係行事の調整・計画・立案に協力する。	A	A	感染症対策、コロナ感染拡大のためPTA活動中止のため、PTA総会、PTA新聞発行部会案内作成等を部員が行った。	PTA活動を補佐し、関係行事の調整・計画・立案に協力する。		
		各行事において安全を第一に優先した駐車場の管理運営を行う。	A		各行事において、駐車場所の企画計画を行い、当日は安全優先した運営を心がけた。また、夏季休業中に校内美化作業も行った。	除草作業だけでなく、校内環境美化作業を企画運営する。また、日頃から校内外の安全と環境美化に心がけ必要部署と連携を図る。		

評価項目	具体的目標	具体的方策・評価指標	自己評価結果	成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価 及び改善方策
生徒指導 (児童生徒指導部)	児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、安全教育の推進を図る。	防災安全部、情報教育部、総務部、保健部などの他分掌や外部関係機関と積極的に連携し、安全教育の取組を豊かなものとする。 機会をどうえ、ルールやマナーについての学習を積む。また、学校生活全般を通して情報モラル教育を計画的に展開できるように教員に働きかける。	A B	単通生安全教室やスマホマナー学習が対面形式で実施できた。小学部の交通安全教室は警察と連携して実施できた。 「生徒心得」等を用いて学年集会や授業でルールや規則の学習を盛り込んだ。計画的で継続的な展開が必要である。 専門委員会正副委員長が挨拶運動に参加する活動が定着し、より多くの児童生徒が主体的に挨拶運動を積極的に進めた。 委員会活動の内容をクラス活動に取り入れ、日常的に取り組む学級もあつた。さらなる主体的な活動としての活性化を図りたい。	情報教育部との連携を深め、ネット上での安全教育を充実させる。児童生徒の課題や実態を捉え、トラブル防止する具体的な内容を盛り込む。 情報モラルの学習は、社会の変化に合わせて内容を工夫する。学習会等だけでなく、個々への指導を充実させられるよう計画する。 専門委員会の代表者以外にも、幅広く挨拶運動に参加できるようにするなど、より多くの児童生徒が生徒会活動への参加する意識を高める。	〈交流及び共同学習〉 ・交流のオンラインの活用は有効であると感じた。オンラインで行う事で交流の場が失われることが無くと関わることができていた。
	一人一人が主体的に学校生活を送り、自分の役割が担える自治活動を推進する。	各児童生徒が大淀養護学校の一員として、積極的に挨拶ができるように毎週初めに児童生徒会役員で挨拶運動を行い、様々な場面で主体的に挨拶ができるように展開する。 生徒会役員、専門委員としての自覚を高め、年間通して、日常的に自主的に活動する。	A A		専門委員会が生徒会活動の一環で自主的な活動であるという共通理解を深め、生徒の自主性や主体性につながるよう題材や活動内容を工夫する。	
	本人・保護者の願いを聞きとったうえで、担任が中心となり、関係機関等と連携し、適切なキャリア教育と進路指導を行う。	【小】コロナ禍の状況を踏まえ、校外学習やときめきタイムの授業を通して、様々な人たちとの関わりを広げたり、社会資源を活用したりする。 【中】「働く」とは何かを考えるとともに、その意識をもって現場体験学習や職場体験学習などの進路学習に取り組む。 【高】担任、学年進路、進路専任が連携・役割分担し、計画的に進路指導に取り組む。現場実習のねらいを明確にして、適切な進路決定につなげる。実習日誌を活用し、日々の指導にも生かせるよう担任や各教科で連携する。「進路指導の手引き」を保護者にも配布し、卒業後を見据え役立つツールとなるよう、積極的に活用する。	B B A		梨狩りや御所おはなしの会など、地域の方との関わりを広げることができた。 今年度の現場体験学習は、3年のみ行う予定であったが中止とした。職場体験学習は、6・7組が1日籠水園で行った。 3学年とも計画的に現場実習を実施した。進路学習の年間計画を担任と協力して作成し、進路指導に生かした。配布した「進路指導の手引き」を活用して保護者に情報提供を行えた。実習日誌に書き慣れることを目指して、作業授業の振り返りプリントを実習日誌に近い形式にした。 感染者増大のため中止したが、保護者には校内研修、福祉事業所には現場実習や情報共有、各市町村福祉課には高等部の生徒を中心に情報共有し連携を図った。進路行事は事業所の借入、大集団での行動になることが多い。学校内で活動制限がある中、事業所等に学校の制限以上の内容を望むことになる。	
進路指導 (進路指導部)	一人一人の社会参加と自立を目指し、各地域との関係機関との連携を深める。	学校見学会や地域別タウンミーティングを実施し、各市町村、福祉事業所の方に学校の取組や子どもたちの様子を知ってもらい学校・家庭・福祉・行政機関が連携をはかるきっかけとする。実施後、ホームページ等に学校見学会や地域別タウンミーティングの内容・様子等について掲載する。	B	来年度は、感染症対策をしながら行事運営を行い、ホームページ等に学校見学会や地域別タウンミーティングの内容・様子等について掲載できるように検討する。学校内の制限緩和を行い、その上で事業所等の見学や利用に向けて人数や開催回数の調整等を行う。	〈その他〉 ・もって地域の資源として福祉や企業を活用しながら教育を行っていく事がこれからは大事である。	
	個々のニーズに応じた指導と必要な支援を行うためのアセスメント力の向上を図る。	サポートリングを参考にしながら個別的教育支援計画の目指したい自立の姿、今年度の支援方針などを、本人や保護者の願いを具体的に計画実行できるように検討や研修を進める。 自立活動の充実を図るため、多角的な実態把握(検査等)を推進する。	B A	新シート『目指したい自立の姿』を作成し、保護者の願いの聞き取りに努めた。記入例を含めたマニュアルを用いて各学部ごとに説明を行った。 必須検査の日程や道具の調整、準備のサポートを行い、円滑に実施できた。検査結果の活かし方研修も行うことができた。自立活動の時間の指導については、事例紹介等で推奨した。 自立活動の時間については事例を紹介しながら推奨した。	保護者などの願いや目指す自立の姿を具体的に計画実施できる個別的教育支援計画を目指す。 アセスメント力を向上させるために、より円滑な必須検査の実施と検査結果を活かすための工夫を行う。 自立活動の充実のために今後も自立活動の時間の指導の推奨に向けて校内のニーズを把握し検討する。	・PTA活動はコロナ禍のためほとんど活動ができなかったが、次年度は、学校教育に保護者も協力したい。
	特別支援教育コーディネータ指導者を中心に、教育相談・訪問相談を行い、地域支援を推進する。	行政や関係機関との連携のもと、校内チームで相談内容やニーズ、児童生徒の実態等を把握し教育相談を進める。オンラインを活用した教育相談を進める。 小・中学校対象のオープンスクールで特別支援学校の授業体験の機会を設ける。	B	コロナ禍で訪問相談はあまり実施できなかったが、実践ヒント交流会を含むオンラインによる教育相談は成果を得ることができた。ケースに応じて関係機関と連携して進めることができた。オープンスクールはコロナ禍で実施できなかった。	オンラインを活用しタイミングを逃さない教育相談を実施する。今後も校内チームで情報共有、助言を行いながら教育相談を進める。 小中学校の先生を対象にニーズに応じた体験等が実施できるように検討する。	
校内支援・ 地域支援 (支援教育部)	関係機関が連携し、適切な就学・入学を推進する。	適切に実態把握ができるように複数体制で就学相談・入学相談を実施する。 市町村教育委員会と適切な就学・入学に向けて連携を図る。	B	各学部工夫をまわって適切な就学入学相談を複数体制で進めることができた。 また、各市町村教育委員会と情報交換しながら進めることができた。	感染症予防を講じながら複数で対応し、適切な就学入学相談の実施と年齢に応じた実態把握ができるよう改善と工夫に努める。市町村教育支援委員会と適切な就学・転入学に向けて連携を図る。	
	社会の変化を捉え、学部間の理解と連携を深めながら、教育力の向上に取り組む。	学校統一テーマ「しあわせに生きる力を育む」に基づき、各学部のテーマを設定する。テーマに応じた研修や実践との結びついた研究課題を設定することで、教員が主体的研究活動を進められるよう工夫する。また、学部を越えた意見交流を大切にしたい、学部間の理解や連携を深めて研究活動を推進する。	B	学部ごとのテーマに応じて研究活動を実施した。研修や日頃の実践との結びつけの充実を図ることで、教員が一定の課題意識をもって取り組むことができた。研究紀要の作成や報告会により、学部間の理解と連携の深化に寄与した。	今年度の研究活動での成果や学びを今後の実践に活かしていけるように学部間で連携を図る。研究活動を実施し、教育力の向上を目指して学部の課題解決を図る。その中で教員が主体的に研究活動に参加できるように研究課題や方法を工夫しながら推進する。	
	授業力や指導力を向上させるため、授業研究や研修の充実を図る。	小・中学部で公開授業研究を実施する。授業の課題解決に向けた研究討議を深められるよう工夫する。公開授業研究の成果や課題は、学部や学校全体で共有する。 学校や各学部の課題やニーズに応じた多様な教員研修を実施する。研修での気付きや学びを全体で共有して、日頃の実践に活かせるように工夫する。	A A	事前の意見交流で授業意図の深化と共有を図ったことで、課題解決や授業力向上に向けた活発な研究討議が実現できた。 夏期教員研修やワークショップを実施した。研修後、まとめを作成して全体で学びを共有した。	公開授業研究での成果を全体で共有することで、授業力や指導力の向上を図る。 課題やニーズに応じた研修の充実を図る。研修後、得た学びを共有したり深めたりできるように工夫する。	
研究・研修 (研究部)	人権教育の取組と研修等、充実を図る。	人権教育に関するねらいを各学部の実践に活かす取組を充実させる。毎月発行する「大淀ほっと通信」の内容を充実させるとともに、児童生徒と教員がともに人権に関する学習を深める機会を設ける。人権や道徳に関する資料等の提供を充実させる。	B	毎月「大淀ほっと通信」を発行し、人権標語や標語に関するエピソードの紹介を掲載した。回によっては生徒の人権作文等のメッセージも発信した。資料等の提供機会は不十分であった。	児童生徒ならびに教員の人権意識を高めることや、人権について学ぶ機会の充実を図るために、「大淀ほっと通信」を学級活動など多様な場面で活用をすすめる。	
	児童生徒の健康・安全に関する校内体制の充実を図る。	アレルギーやてんかん発作など、各学部の児童生徒に対応した研修を積極的に進め、必要な知識や対策を学習、確認できる機会をもつ。 新型コロナウイルス対策において県のガイドラインを細かく読み取り、本校の児童生徒に合った感染症対策を進めることで、安全、安心に登校ができるよう環境を整える。	A B	学部に応じて必要とされる知識を、研修を通じて伝えることができた。 新型コロナウイルス対策において、1年目のガイドラインを大きく変更することがなかったため、消毒液や検温の確認等、昨年度と同様の感染症対策を率先して取り組んだ。	今後も、医療的ケアが必要とされる児童生徒、またそれに準ずる児童生徒の対応に学部、学校として情報を共有してサポートにあたるよう進める。 今後も継続して学校保健委員会と連携をとり、対策の変更等にすぐに対応できるように備えておく。	
	円滑な行事運営と、安全に関する環境整備を行う。	はるのうんどうかいや体育大会、障害者スポーツ大会等の行事を安全かつ円滑に進められるよう、企画や立案を計画的に行う。(新型コロナウイルス対策も含めて) 体育館や運動場、プールの施設・設備に関わる安全に対する取り組み(熱中症予防を含む)を充実させ、安全に体育的な活動ができるように環境を整える。	A B	昨年度に引き続き種目の検討や保護者の人数制限を行った。障スポ大会では、教員が率先して引率し、安全に参加ができた。 体育館の壁に扇風機を設置し、活動に対するフロアの安全と熱中症対策両面からアプローチすることができた。	新型コロナウイルス感染症対策における規制緩和に向けての案を再検討し、各学部においてよりよい体育行事の形を形成していく。 建物や備品の老朽化が進んでいる。使用する事前に安全性の点検や改良を検討する必要がある。	
情報教育 (情報教育部)	情報のスリム化と管理体制を構築するとともに、教職員のICT活用を進める。	新システム(校務系・教育系)の円滑な運営と活用方法の提案する。 他分掌と連携して教育活動や仕事が効率的かつ向上できるように取り組む。 クロームブックを活用し、教育活動に活かす。	B B	各教員が新システムやGoogleアプリなどに少しずつ慣れてきて、活用に向けた相談なども増えてきている。 ブラウザで起動できるweb教材を音楽や美術等で活用した。	引き続き使いながら慣れていき、活用の幅を広げていく。また、それに合わせて情報リテラシーへの意識もさらに高めていけるような発信をしてい活用した実践を共有して、授業内容の選択肢を増やしていく。	
	学校HPを組織的に運用し、情報発信に努める。	各分掌にて、掲載内容をWordで作成し、情報教育部がPDF化してHPへ掲載する。	B	業務を分業したことにより、ホームページ掲載への障壁は低くなり、スムーズな運用ができた。	紙面の資料をスキャンしてデータ化し、ホームページ掲載できる状態まで各分掌でできるように、レクチャーしていく。	
文化的行事 (文化部)	行事や作品展を通して児童生徒が輝ける機会を作るとともに、開かれた学校として地域や保護者とのつながりを深める。	ふれあいまつりでは、コロナ禍での状況を踏まえながらねらい・内容を検討し、活動(出店・体験)を通して、小・中・高、三学部のつながりを深める。 おはなし広場では四季や行事を感じたり、大淀養護学校アート展では企画・内容を見守り・生徒たちと一緒に考えたりするなど、楽しめる行事を企画・運営する。 児童生徒の作品の校内掲示の充実(旧作品の改修を含む)、また特別支援学校アート展等の作品展を通して、児童生徒の美術活動を地域に発信する。	A B B	コロナ禍の中での実施となり、感染症対策を強化して行った。三学部のふれあいの場は保障できた。 おはなし広場は、昨年度同様の実施。大淀養護学校アート展の企画は、児童生徒の興味をもてるコーナーも作った。 校内掲示の充実も、あまりできていない。特別支援学校アート展等の作品展は多く呼びかけ、発信できた。	コロナ禍での状況を見ながら、三学部のふれあいの場と保護者の参観の機会という2点を大切にしながら検討していく。 コロナ禍での状況を見ながら、時期や内容を検討して、児童生徒が楽しめる内容で検討していく。 計画的に校内掲示の大型作品の制作を呼びかけるなど工夫して充実させていく。	
	安全な環境づくりに取り組み、安全教育を推進する。	校内の安全点検を実施し必要な備えをする。全校児童生徒対象の避難訓練、防災の日の実施、児童生徒指導部と協働で単独通学生対象の安全教室を実施する。	B	避難訓練(地震・火災)、防災集会、非常食体験の実施に加え、単通生安全教室にて災害時対応の指導を行い防災意識を高めた。	危険箇所での状況把握・経過をしっかりと行い情報提供する。実態に応じた指導を行うため各学部と連携を図る。	
	児童生徒の安全を第一に考えて行動できるように徹底する。	他分掌と連携し防災研修を実施、災害時対応について検証する。防災研修の反省を踏まえ、本校版「防災マニュアル」を改定していく。災害時の対応について保護者への周知を図る。	B	情報教育部の協力をえてチャットを活用し、非常時の情報のやりとりを実施した。本部での仕事内容・役割分担を明確化し、アクションカードを使用。研修を踏まえマニュアルを見直した。	災害時、よりスムーズに対応できるように実践していく。部員・教員の防災知識の向上を図る。	